

カキ「太秋」の早期着色果は軟化が多い

早期に着色が進んだ果実は、正常に着色する果実に比べ、軟化果実となる可能性が高い。このため、早期に異常に着色の早い果実(果頂部の着色がカラーチャート値で4.0以上)は、市場販売としての出荷を控える。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者: 加久るみ子)

研究のねらい

近年、「太秋」の果実が市場に届いた段階で軟化する現象が生じている。産地の信用を失墜させてしまう問題となる恐れがあり、早急に対策を講じる必要がある。そこで、選果場における初出荷時や現地ほ場における果実軟化発生実態を調査し、果実軟化発生の要因解明に資する。

研究の成果

1. 正常に着色する果実(正常着色果)の果頂部果皮色がカラーチャート値 1.5 ~ 2.5 の頃に、果頂部果皮色がカラーチャート値 4.0 以上にもなるような早期に異常に着色が進んだ果実は、正常着色果に比べて果実軟化しやすい(表1、表2、写真1)。

普及上の留意点

1. 果実の着色開始期は年次間差や園地間差、標高差等があるため、果実軟化の有無の判断は、その年の正常果の着色状況と比べて判断すること。
2. 太秋の収穫基準は赤道部果皮色がカラーチャート値で3.5以上であり、本来の成熟期は10月中旬以降である。正常着色果は赤道部果皮色が4.0になっても肉質が劣ることはないので、早採りしないようにする。

表1 現地圃場における早期着色果と健全果の樹上での経時的果実軟化の推移

着色区分	調査 果数	着色 程度	樹上での軟化数			累計軟化 発生率(%)	10月9~16日 に収穫した果数
			9月11日	9月24日	10月5日		
早期着色	15	4.0	4 (4)	1 (5)	3 (8)	53.3	7
正 常	15	1.5	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6.7	14

注) 2009年9月3日に着色が進んでいる果実と正常な果実を対にして各15ラベルを下げ追跡調査
着色程度は果頂部のカラーチャート値。()は累計値

表2 現地圃場における早期着色果と健全果の収穫後の軟化状況

着色区分	調査 果数	着色 程度	収 穫 後 の 軟 化 数					収穫後9日までの 累計軟化率(%)
			当日	3日後	6日後	9日後	12日後	
早期着色	10	4~4.5	2 (2)	1 (3)	0 (3)	0 (3)	1 (4)	30
正 常	5	3.0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0

注) 収穫日は2009年10月9日。着色程度は果頂部のカラーチャート値。()は累計値



写真1 早期着色果(左)と正常果(右)の着色の違い(10月6日)